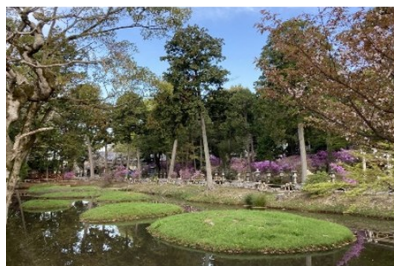


庭園間交流連携促進計画（周遊部門）

いせのくに

伊勢國お庭街道

～庭園を巡る令和のお伊勢参り～



2026（令和8）年3月（※登録日）

みえガーデンツーリズム協議会

取組の将来像（ビジョン）





（日本人の憧れの地「伊勢神宮」）

三重県には、江戸時代、「一生に一度はお伊勢参り」と言われるほど日本人の憧れの地であった「伊勢神宮」があります。天照大御神をお祀りし、全国約8万社の神社の中で、最大の聖域かつ格別のお宮で、年間1500回に及ぶお祭りが行われます。その中で特に式年遷宮は、20年に一度、社殿と神宝を新調して大御神に新宮へお遷りいただく神宮最大のお祭りであり、1300年にわたり受け継がれてきました。次の第63回式年遷宮は2033（令和15）年に予定されており、2025（令和7）年には遷宮最初の行事「山口祭」が執り行われます。

◆神宮式年遷宮に向けた諸祭・行事

2025年～第63回神宮式年遷宮 諸祭・行事 スタート

1300年以上にわたり受け継がれる30の祭典や行事が**2025年から始まり、8年後の2033年、クライマックスである「遷御(せんぎょ)」が執り行われる。**

遷宮の最初の行事 山口祭	最もにぎやか 御木曳行事	古式ゆかしく渡り初め 宇治橋渡始式	エンヤー！の掛け声で 御白石持行事	社殿建築の 終了	御神体を新宮へ遷す 遷御の儀
					
新宮の造宮用材の伐採を前に、伐採地となる「御杣山（みそまやま）」の山の口に坐す神に伐採と搬出の安全を祈る行事。	御杣山より伐り出された御用材を、内宮と外宮の両宮に曳き入れる伝統行事。旧神領民と全国の崇敬者により盛大に行われる	内宮入口に架かる宇治橋は、遷宮の度に架け替えられる。「渡女（わたりめ）」を先頭に全国から選ばれた三世代揃った夫婦等が渡る。	旧神領民と全国の特別神領民が新宮の正殿用地に白石を敷き詰める。遷御後は立ち入れない正殿そばまで入れる唯一の機会。	造宮工事の完了を意味する御戸祭、新宮の正殿の床下に天平盆（あめのひらか）を奉居する後鎮祭を経て、社殿建築の祭りが終了。	大御神が新宮の正殿へ遷られる式年遷宮の中核をなす祭り。天皇陛下が定められた時刻に本殿から出御され、新殿に入御される。
2025	2026～27	2028	2033	2033	2033

（三重県観光の課題）

2013（平成25）年に執り行われた第62回式年遷宮では、参拝者数が1420万人で過去最高を記録しました。その後はコロナ禍の影響で2020（令和2）年は553万人、2021（令和3）年は382万人と過去10年間で最も少ない参拝者数となりましたが、コロナ後の2023（令和5）年には717万人まで回復し、前回の式年遷宮から10年間で8462万人が伊勢神宮を訪れたこととなります。

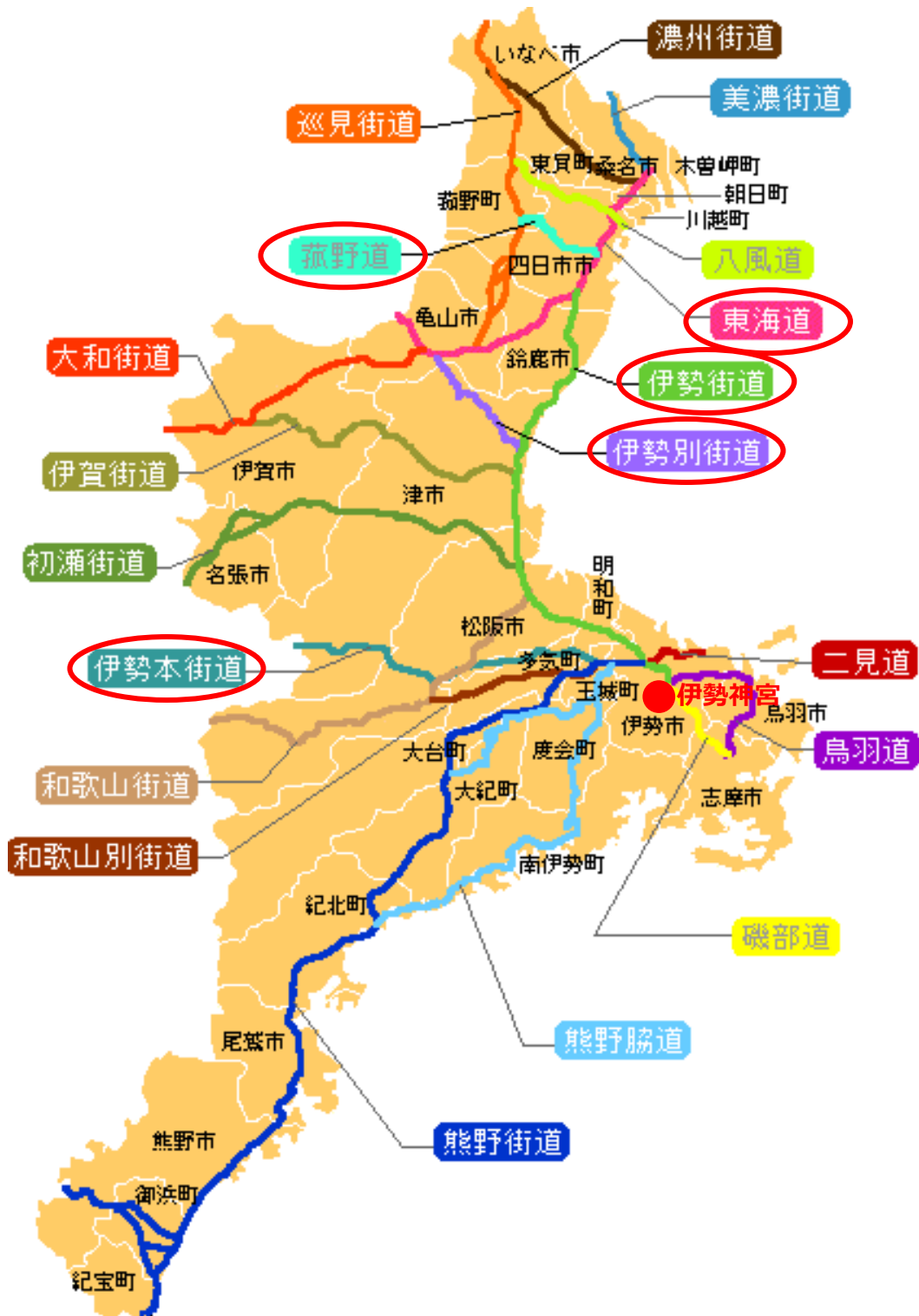
一方で、三重県を訪れる旅行者の宿泊／日帰りの割合は、宿泊が28.2%、日帰りが71.8%（令和5年の三重県観光客実態調査報告書による）で、日帰りの割合が年々高くなっています。また、平均宿泊日数は、前回の式年遷宮以降、低下傾向で、特に2020（令和2）年は1.16泊で全国46位（全国平均1.33泊）となっており、伊勢神宮に多くの参拝者が訪れているにも関わらず、県内の宿泊に取り込めていないことが課題です。

（「みえガーデンツーリズム協議会」の目指すべき姿（ビジョン））

江戸時代、多くの庶民が、お伊勢参りの前後に、さまざまな観光地を巡りながら県内で宿泊したように、第63回式年遷宮に向けて、多くの参拝者に宿泊して滞在いただけるよう、周遊・滞在型の観光コンテンツを育てていく必要があります。

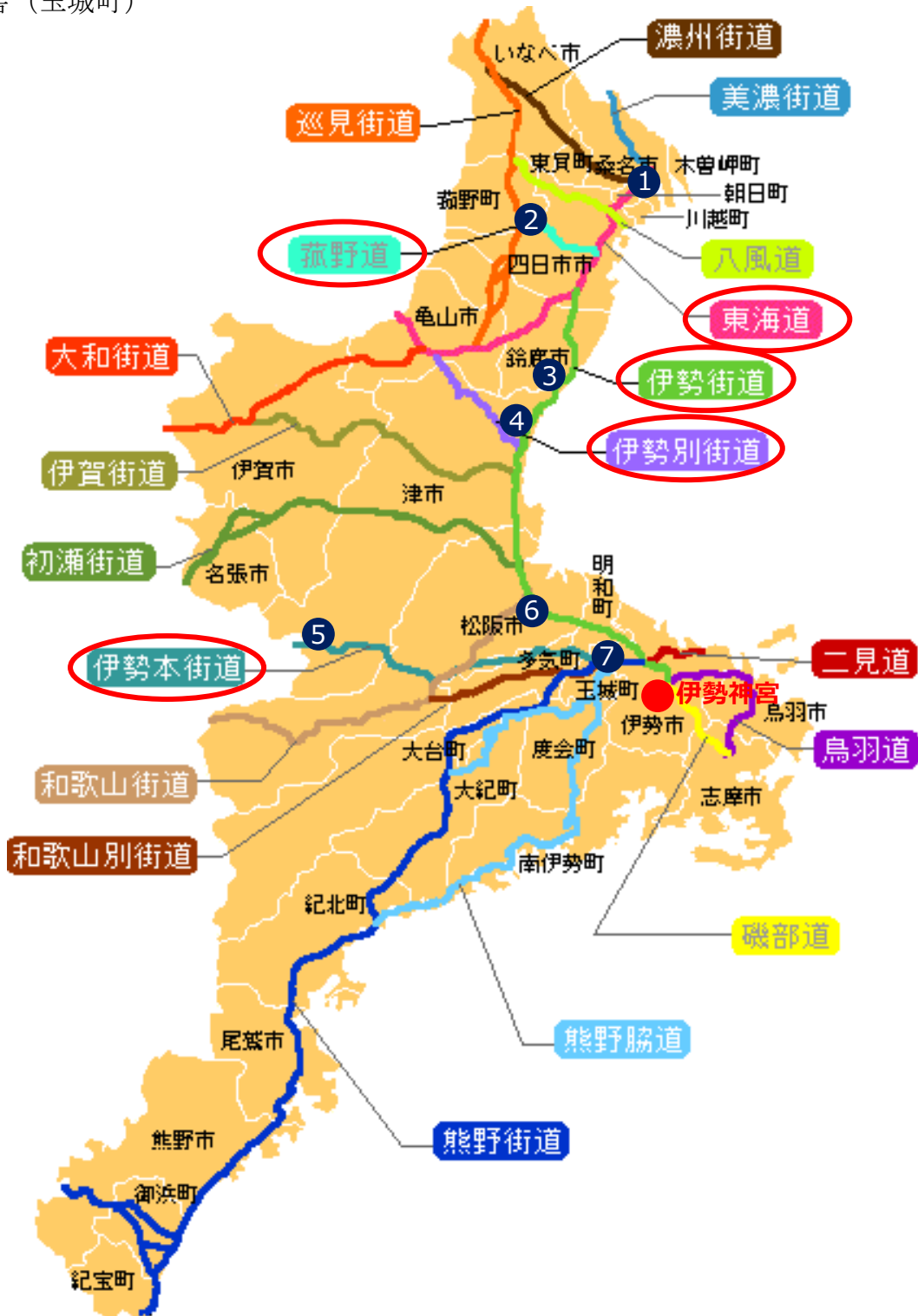
「みえガーデンツーリズム協議会」は、三重県内に存在する庭園間の連携により、国内はもちろん世界に向けて「みえガーデンツーリズム」を広く発信するとともに、インバウンドを含む伊勢神宮への参拝客に県内周遊と宿泊を促すツアーを実施することで、伊勢神宮へと繋がる道中の「街道」に賑わいを取り戻します。本計画の「伊勢國お庭街道」の実現を通して、県内宿泊客の増加と地域経済の活性化につながる「現代版お伊勢参り」の確立を目指します。

取組全体の範囲がわかる位置図（※マル印が関係する街道）



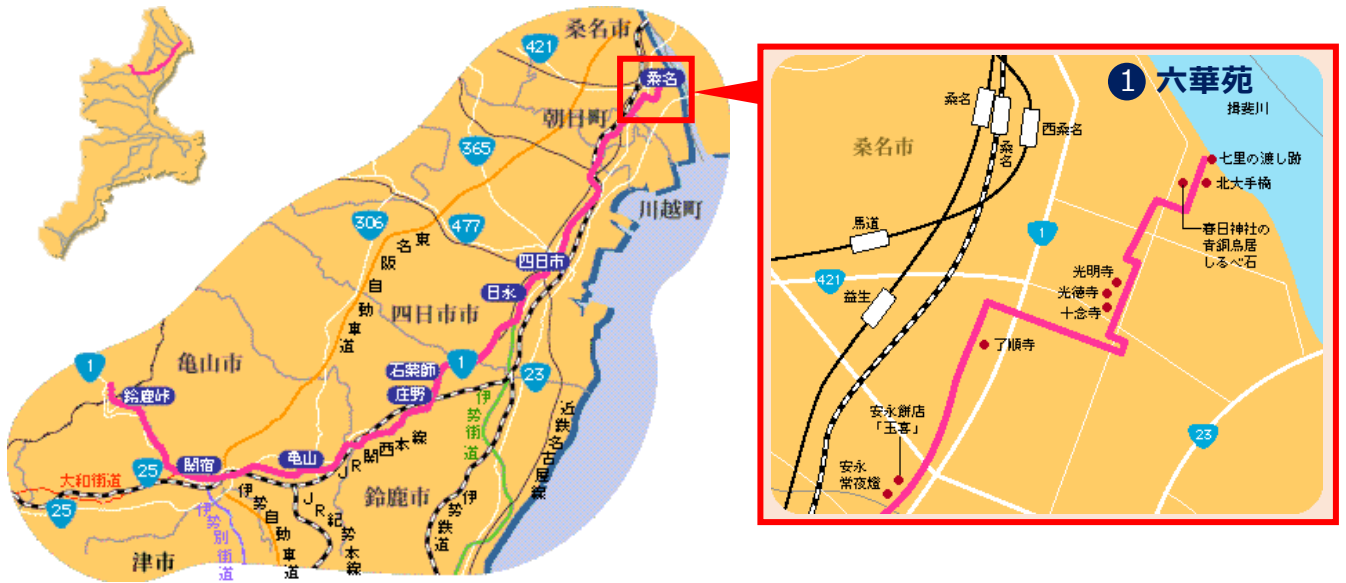
構成庭園の位置図（地図等）

- ①六華苑（桑名市）
- ②横山氏庭園（菰野町）
- ③伊奈富神社（鈴鹿市）
- ④真宗高田派本山専修寺 雲幽園（津市）
- ⑤北畠氏館跡庭園（津市）
- ⑥旧長谷川治郎兵衛家（松阪市）
- ⑦玄甲舎（玉城町）



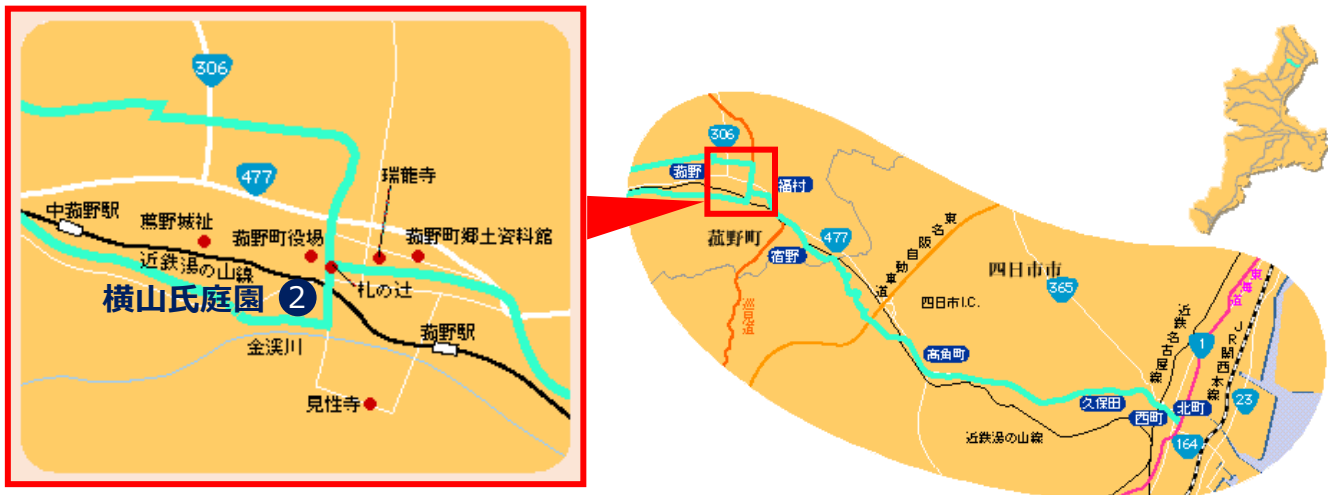
◆東海道

①六華苑（桑名市）



◆菰野道

②横山氏庭園（菰野町）



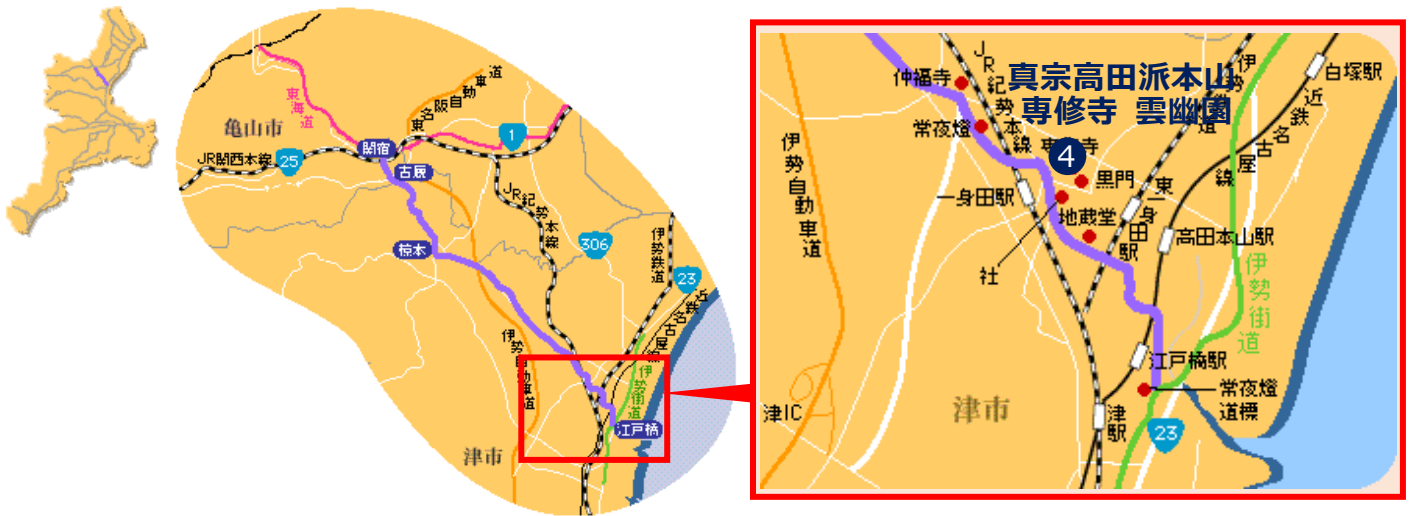
◆伊勢街道

- ③伊奈富神社（鈴鹿市）
- ⑥旧長谷川治郎兵衛家（松阪市）



◆伊勢別街道

④真宗高田派本山専修寺 雲幽園 (津市)



◆伊勢本街道

⑤北畠氏館跡庭園 (津市)

⑦玄甲舎 (玉城町)



計画のテーマ

いせのくに
伊勢國お庭街道 ～庭園を巡る令和のお伊勢参り～

計画のテーマ：ガーデンツーリズム（庭園観光）を通して、
本来のお伊勢参りを復活すること

1. 伊勢神宮へと続く街道

お伊勢参りなどの旅人が多く行き交った三重県では、情報や文化の交流、物流の場としてたくさんの街道が発達しました。街道は、地域の繁栄、経済の繁栄に大きな役割を果たし、三重を作る大きな原動力となるとともに、これらの街道沿いには、歴史ある寺社や庭園、地域に根差した産業、伝統工芸や文学、食などの文化、さらには旅人に対するもてなしの心や祭り・習慣・民話に至るまで、有形・無形の歴史的な観光資源がたくさん残っています。

本来のお伊勢参りは、出発地からの直行直帰型ではなく、街道沿いにある寺社仏閣を巡り、各地の特産を食し、温泉につかり、宿に泊まりながらお伊勢さんを目指しました。令和のお伊勢参りは、ホテル（旅館）に泊まり、庭園巡りを楽しみ、温泉につかり、各地の名物を食し、ゆっくりとお伊勢さんを目指す時代に戻りたい。そしてお伊勢さんへの道中の街道に賑わいを取り戻したい。

それが、私たちの計画のテーマです。

以下、本計画で関連する5つの街道の歴史的な背景や特徴を整理します。

**(1) 東海道**

三重県内を通る東海道は約45kmで、東海道42番目の宿・桑名宿から、四日市・石薬師・庄野・亀山・関・坂下を経て天下の難所鈴鹿峠へと向かいます。

桑名宿へは、多くの旅人が、熱田・宮の渡しから海上七里を船に乗り、桑名の渡しに入ったことから「七里の渡し」と呼ばれています。ここにある大鳥居は、これより伊勢路に入ることから「伊勢国一の鳥居」と称されています。

また、東海道47番目の宿場町である関宿は、江戸から明治期にかけての町屋が約200軒も残り、国の重要伝統的建造物群保存地区にも選定されています。西の追分からは大和街道が、東の追分からは伊勢別街道がそれぞれ分岐していたため、江戸時代にはこれらの街道を往来する人々でにぎわい、参勤交代や伊勢参りなどの交通の拠点として繁栄していました。東の追分にある大鳥居は、「伊勢神宮一の鳥居」と称されています。なお、20年に一度の式年遷宮の際、伊勢神宮の宇治橋の内側の鳥居は「関の追分」に、外側の鳥居は「七里の渡し」に移設されます。

(2) 菰野道

菰野道は、東海道四日市宿と菰野一万石の城下を往来する道で、城下町や湯の山を訪れる旅人をはじめ、参勤交代で江戸に向かう菰野藩主も通りました。亀山から来る巡見道と交わる宿野の西久保の辻から城下の東町口にかけては、かつて立派な松並木がつづき、旅人も立ち止まって見惚れたといひます。

(3) 伊勢街道

伊勢街道は、四日市市日永の追分で東海道から分岐し、また、いくつかの街道とも合流して伊勢湾沿いを南下し、伊勢までの距離およそ十八里（約70km）。平安時代には、すでに伊勢神宮への一般人の参拝も一定数あったようですが、その後、武士の神宮への崇敬心の高まりや街道が整備されたこともあり、庶民の伊勢参宮が一般化し、多くの人々が伊勢を目指しました。「伊勢に行きたい伊勢路がみたい。たとえ一生に一度でも」と伊勢音頭にも歌われ、多くの人があこがれた伊勢参り。時には500万人もの人々が熱狂的に伊勢を目指したこの道は、東海道に次いで交通量が多く、物資や文化、情報の行き交う賑やかな街道でした。

明和町内には、天皇に代わり、飛鳥時代からおよそ660年という長きにわたり、国の平安と繁栄のため、都を離れ伊勢神宮の天照大神に仕えた特別な皇族女性「斎王」が500人の官人や侍女と住んでいた独特で特別な都「斎宮」があります。東西およそ2キロメートル、南北およそ700メートル、137.1ヘクタールにおよぶ広大な面積の史跡で、昭和54年に国指定史跡となりました。

(4) 伊勢別街道

伊勢別街道は、関宿東追分から津市芸濃町棕本（むくもと）、津市一身田（いっしんでん）を通り、伊勢街道と合流する江戸橋までの総距離およそ四里二六町の街道です。日本の政治の中心が大和にあった頃には、大和から伊賀を通して伊勢に至る主要ルートでもありました。「いせみち」「参宮道」「山田道」などと呼ばれ、幾つかの宿場町を持ち、江戸時代には京都方面からの参宮客で賑わいました。現在でも各地の参宮講の講社札を掲げた旅宿が残されていたり、参宮講社の寄進によって作られた県下最大の常夜燈が現存したりしています。

(5) 伊勢本街道

大和国と伊勢神宮を結ぶ伊勢本街道は、別名・参宮本街道、伊勢中街道とも呼ばれていました。南北朝以後、伊勢国司北畠氏が現在の津市美杉町の多気に館を構え、多くの武士団が居住し初期城下町を形成したことや、伊勢参宮者の増大にともない多くの人々がこの街道を利用したと言われていています。現在でも、旧宿場町に残された道標や常夜燈、古い町並みがかつての姿を今に伝えています。

2. お伊勢参りを導いた「御師（おんし）」の存在

江戸時代、庶民の間でブームとなったお伊勢参りでは、伊勢神宮への参拝の前後に道中にある観光名所やさまざまな寺社に立ち寄ったと言われていています。当時は基本的に歩き旅なので、長い人は3ヶ月ほど旅していたという話もあります。旅にはお金がかかるので、庶民は「伊勢講」という組織を組んでお金を積立て、毎年代表者を参拝に送りだし、代表者は講の参加者の分のお祓いも受けて帰るといったシステムがありました。

このような旅のシステムをフォローしていたのが、伊勢の御師です。

伊勢の御師は、江戸時代には 800 軒あったとされており、全国に出向いて担当する講にお札や暦をくばって初穂料を受け取り、その講がお伊勢参りに来た際は、自分の家で盛大にもてなしお神楽やお祓いを行っていました。

現代の旅行代理店やツアーコンダクターのような役割を果たした「御師」の活躍により、お伊勢参りの流行につながり、多くの庶民が伊勢への旅を楽しむにつれ、三重の街道筋（地域）が発展したと言っても過言ではありません。各庭園の管理者が、みえガーデンツールの一翼を担い、「現代版のお伊勢参り」の御師のような役割を果たしていくことが重要と考えています。



江戸時代には御師の館が建ち並んでいたおはらい町



御師の屋敷ジオラマ（三重県立博物館 MieMu 所蔵）

庭園管理者は「令和の伊勢御師」



令和 6 年 11 月 14 日開催の中日文化センター紀行講座「伊勢國お庭街道～庭園管理者が語る名園の魅力」左から北畠神社岡宮司、横山邸園 横山陽二氏、六華苑 石神苑長が熱を込めて各庭園の魅力について語りました。伊勢國お庭街道では、庭園管理者が「令和の伊勢御師」として役割を果たします。

3. 現代に受け継がれる施行（おもてなし）

おかげ横丁の名前の由来でもある「お蔭参り（おかげまいり）」は、江戸時代におこった群衆による伊勢神宮参拝のことです。その語源は、天照大御神の「おかげ様」で参拝を果たせるの意味であったり、「おかげ様」で平穏であることへの感謝であったり、長い旅の道中様々な人の「おかげ様」で参拝を果たせた為など諸説あります。

「一生に一度はお伊勢さん」と言われるほど、江戸時代に生きた人たちにとって憧れであった伊勢神宮でしたが、誰もが気軽に赴ける場所ではなく、諸事情や健康上の理由により参拝したくても叶わない人も多くいました。それでも神宮の御利益をいただきたいと、主人の代わりに「飼い犬」に伊勢神宮を参拝させる「おかげ犬」まで登場しました。歌川広重「伊勢参宮 宮川の渡し」や「東海道五十三次 四日市」には実際に神宮を代理参拝



【代参】する「おかげ犬」が描かれていますので、当時は珍しいことではなかったことが伺えます。

「おかげ参り」と呼ばれるようになったのは後の時代からで、それ以前は「抜け参り」と言われていました。江戸時代には家族に黙って参拝に出かけてしまう人や、子どもが親に黙って「抜け参り」することもあったほどです。今ではとても信じられないことですが、当時は伊勢神宮を参拝することが善業という風潮であったため、抜け参りは世間的に容認されており参拝した人を誰も責めることはなく、それどころか抜け参りの旅人を見つくと、宿を用意したり、食事を用意したり、旅賃やお茶を振る舞ったりと、積極的に手助けをしたそうです。それほどまでに神宮参拝は尊い旅でした。

抜け参りの旅人は柄杓（ひしゃく）を携えるようになり、行く先々で様々なおもてなしを受けることができました。こうした参拝者へのおもてなしは、現代まで受け継がれ、伊勢市内には柄杓の代わりに「参宮木札」を携えたお客様に施行（おもてなし）を行う店舗（施行店舗の会）が存在しています。

【日本庭園における「おもてなし」について：横山氏庭園（菰野町）の事例】

- ・庭師が清掃を済ませ、砂紋を描き、苔と石に水をまき、生け花でお客様をもてなします。こうした砂紋や花の設えの「おもてなし」について質問やコメントを多くいただきます。



- ・ホテルマロニエ湯の山温泉とタイアップしたイベントでは、料理長の「庭懐石弁当」（2月は梅、3月は桜）を企画。料理長の料理と日本庭園とのコラボレーションは、1万5千円の参加費にも関わらず、各席満席となり、お客様のおもてなしに成功しました。ガーデンツアー計画の登録後は、さらにホテルとタイアップしたおもてなし企画をプロデュースする予定です。

庭懐石弁当 桜(イメージ写真)



重森三玲手がけた庭園 一般公開

三重の「菰野横山邸園」
ツアーや見学会開催

昭和を代表する作庭家、重森三玲（1896～1975年）が手がけた日本庭園「菰野横山邸園（三重県菰野町）」が、一般公開を本格的に始める。国の文化財に選ばれるなど評価が高いが、個人の邸宅にあり半世紀にわたり非公開放だった。庭園を所有する横山陽三さん（55）は「庭園ファンや観光客に楽しんでほしい、対価をいらない」と話す。

横山家は江戸時代に庄屋や代官を務め、書院や土蔵など

中日新聞朝刊 2023年1月26日

6棟からなる横山家住宅も国の登録有形文化財になっている。庭園は横山さんの祖父秀吉さんの依頼で、重森が1968年に作庭。名古屋で外科医を開業していた秀吉さんは週末を菰野で過ごし、心を落ちつかせるため庭園を希望した。重森は京都・東福寺の本坊庭園が代表作で知られる。横山家住宅の主屋に面した表庭は、砂で海を表現した枯山水庭園の中央に「心」の字をかたどった島を表す築山をつくった。裏庭は菰野の田園風景をイメージした。庭園は20

20年に文化庁の登録記念物の（名勝地関係）に指定された。庭園ツアーは2月18日、3月17日に開くほか、10月末にも庭園見学会を予定する。横山さんは「日本庭園は訪日客にも人気が高い。いずれは庭園を見ながら座禅を組めるようなツアーも企画したい」と話す。

2、3月のツアーはホテル「オールド・マロニエ湯の山温泉」（菰野町）の季節の高級懐石弁当を味わいながら見学する。料金は送迎つきで1方5千円。問い合わせは059-3210009（392）3210（白石巨）

4. 餅街道

全国各地から伊勢の地をめざした旅人たちは、道中に手早く食べられ腹持ちが良いお餅を好んで食べたと言われていています。桑名から伊勢までの参宮街道は別名「餅街道」とも呼ばれ、街道沿いには旅人をもてなす道中食として親しまれた名物餅があり、現在も多くのお店でその味を楽しむことができます。



赤福餅（伊勢市）



二軒茶屋餅（伊勢市）



へんば餅（伊勢市）



太閤出世餅（伊勢市）



神代餅（伊勢市）



岩戸餅（伊勢市）



さわ餅（伊勢志摩・松阪地方）



安永餅（桑名市）



なが餅（四日市市）



関の戸（亀山市）



志ら玉（亀山市）



おきん餅（多気町）



まつかさ餅（多気町）

5. 本計画のビジョンを実現するために各構成庭園等が共有すべきこと

- ①伊勢神宮へとつながる街道付近に存在する庭園等であること。
- ②お伊勢参りの旅行者が「庭屋一如」を楽しみ、立ち寄るべきストーリーや歴史等があること。
- ③「御師」のような役割を果たす管理者が存在し、旅行者に現代版の施行（おもてなし）を行う意欲があること。
- ④「みえガーデンツーリズム」を自ら積極的に発信するとともに、インバウンドを含む旅行者に対して、庭園をはじめ街道で育まれた三重の食文化や、街道で受け継がれてきた歴史、伝統・文化、産業、街道付近の花の名所等を案内し、街道の賑わい創出に貢献すること。
- ⑤旅行会社が行う周遊・滞在型のツアー商品の造成とサービス提供に協力できること。
- ⑥「みえガーデンツーリズム」の主旨・目的に賛同する、新たな庭園等の参画を受け容れること。

【参考／引用した公式サイト】

- ・ 三重県環境生活部文化振興課
- ・ 公益社団法人伊勢市観光協会
- ・ 公益社団法人三重県観光連盟
- ・ 有限会社へんばや商店

構成庭園一覧表

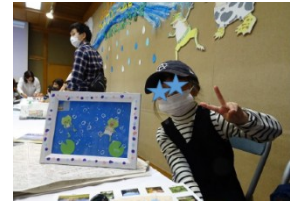
ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	ろっかえん きゅうもうとせいろくたい 六華苑 (旧諸戸清六郎)	構成庭園の 所在地	三重県桑名市大字桑名字鷹場 663-5
構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】 約 18,000 m²</p> <p>【入園料金】 一般 [高校生以上] 460 円 (390 円) / 中学生 150 円 (70 円) () 内は 20 名以上の団体料金 ※小学生以下は付添が必要</p> <p>【公開時期】 通年公開 月曜休苑</p> <p>【施設管理者】 桑名市</p> <p>【その他】 六華苑は、二代目諸戸清六の邸宅として大正 2 年 (1913 年) に完成しました。本苑には、鹿鳴館の設計で有名なイギリス人建築家ジョサイア・コンドル設計による 4 層の塔屋をもつ木造 2 階建て天然スレート葺きの洋館、和館や蔵、池泉回遊式庭園などがあります。和洋の様式が調和した明治・大正期を代表する貴重な文化遺産であり、国の重要文化財に指定されています。また、庭園は国の名勝に指定されています。</p> <p>洋館は木造二階建て、ヴィクトリアンスタイルを基調とした住宅です。庭園に面して多角形に張り出した 1 階のテラスと、2 階のサンルームが特徴的です。なかでも、2 階建ての本体部分との比例を無視して高く突出した 4 階建ての塔屋が印象的で設計図によれば当初、塔屋は 3 階建てとして設計されていましたが、「揖斐川を見渡したい」という二代目清六の意向を反映し、4 階建てに変更されました。</p> <p>庭園面積 は約 15,000 m²。庭園には池泉や築山、枯山水や石灯籠など伝統的な日本に、大きな池や広い芝生広場といった開放的な洋風庭園が取り入れられている。</p>		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<p>江戸時代の東海道唯一の海路であった七里の渡しによって、多くの旅人たちが桑名へとやってきました。その七里の渡跡には、今も人々を迎える鳥居が立ち、「伊勢国一の鳥居」と呼ばれています。</p> <p>そこからすぐのところ建つのが二代目諸戸清六が建てた洋館と和館に池泉回遊式庭園が美しい六華苑です。今も昔も伊勢国の玄関口にあたる桑名、そのシンボリック存在が六華苑です。</p> <p>【東海道周辺を活性化し、賑わいを創ること】 東海道の七里の渡跡から六華苑がある住吉エリアは桑名の歴史と文化の中心であり、今も昔も多くの人たちが行きかう、桑名観光の顔となっています。この水辺エリアの活性化を図ることを目的とした「かわまちづくり協議会」という団体もあり、水辺をイベントの会場として活用しています。また、隣接して諸戸氏庭園や国営木曾三川公園七里の渡し公園などがあり、周辺の諸団体と連携していくことで、より充実したおもてなしが可能となってきます。</p> <p>これまでも六華苑では、絵本・フローティングフラワー・テーブルコーディネート・アフタヌーンティー・コンサート・ワークショップ・プロジェクションマッピングなど、多彩なコンテンツを用いて来場者を得てきています。</p> <p>学術的にも、専門家を招いたシンポジウムなどを開催している他に、同じジョサイア・コンドル設計の建物を持つ清泉女子大学と連携協定を結び、交流を深めています。</p> <p>今回の「伊勢国お庭街道」を通じて、東海道周辺の活性化をはかり、周辺エリアの賑わい創出につなげていきます。</p>		



絵本



フローティングフラワー



ワークショップ



アフタヌーンティー



コンサート



清泉女子大学との連携協定

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	よこやましていえん (こものよこやましていえん) 横山氏庭園 (通称: 菰野横山邸園)	構成庭園の 所在地	三重県三重郡菰野町大字菰野字中里 2656 番、2657 番
2 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】 846, 1 (m²) 【入園料金】 3,000 円 【公開時期】 4月～7月、10月～3月 (完全予約制) 【施設管理者】 民間 【その他】 参考文献 『現代和風庭園 庭に生きる』(重森三玲) 『日本庭園史大系 現代の庭 (二)』(重森三玲・完途) 『こもの文化財だより 34号』(横山陽二) komonobunkazai34.pdf (town.komono.mie.jp)</p> <p>横山氏庭園は、令和2年に「国登録記念物(名勝地関係)」に登録されました。菰野横山家12世の横山秀吉が昭和を代表する作庭家である重森三玲氏に依頼して、昭和43年に完成しました。庭園は、玄関前庭(国登録有形文化財の正門から主屋の玄関に至る庭)、表庭(枯山水の中心に心字島を配置)、露地(国登録有形文化財である茶室尽日庵がある)、裏庭(国登録有形文化財である書院の裏にある)の4庭からなります。正門から見える玄関前庭について重森氏は、江戸末期の建物である主屋(国登録有形文化財)と正門の調和を念頭に作庭したと述べています。表庭は、心字形の島がある蓬莱式の枯山水です。書院の前にある舟石の形は、重森氏が大仙院庭園のものに匹敵する名石として評価する程に美しい。露地には、明治中期頃の茶室尽日庵が静かに佇んでいます。裏庭は、車窓から見えた昭和の菰野の田園風景を抽象化したモダンな庭であり、赤と白の砂で視覚に明るく訴える構成となっています。</p> <p>横山氏庭園は、「庭屋一如」で重森氏が策定した庭と主屋、書院、茶室との調和を楽しむこともできる庭です。</p>		<p>前庭</p>  <p>表庭</p>  <p>露地に立つ尽日庵</p>  <p>裏庭</p>  <p>*横山家来歴について 代々伊勢国司北畠家に仕え(旗本として白口峠を守護)、内紛の絶えなかった北畠の行く末を案じて横山左馬介重近は、次男の重廣を永禄7年(1564年)に北伊勢の要所であった菰野に逃して織田家側につかせ、一族の生き残りを図りました。江戸時代には菰野藩士となり、明治維新時は代官として藩政に参画していました。明治維新後10世の久平は、藩主土方雄志に従い東京で暮らした後に菰野に戻り、菰野村村長となります。11世の一格は、京都帝国大学医学部を出て医師となり、名古屋で開業し、その後大正13年に菰野より衆議院選挙に出馬して当選しています。 東京帝国大学医学部を卒業した12世の秀吉は、一格が開業した病院を継ぎ、戦後の一時期疎開先の菰野で診療所を開設しました。その後、病院のあった名古屋に戻り、以後菰野の横山邸は、別荘として使用されました。</p>

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	いのうじんじゃていえん (ななしまいけ) 伊奈富神社庭園 (通称: 七島池)	構成庭園の 所在地	三重県鈴鹿市稲生町 10683 番 ほか 5 筆 ※伊奈富神社の鎮座地は鈴鹿市稲生 西 2-24-20
構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】約 4,000 m² 【入園料金】無料 【公開時期】通年公開 【施設管理者】民間 (宗教法人 伊奈富神社) 【その他】参考文献 『三重県指定名勝伊奈富神社庭園保存修理事業報告書』2023 宗教法人 伊奈富神社</p> <p>伊奈富神社庭園 (七島池) は、その北側に広がる境内地 (ツツジ山) とともに、少なくとも 500 年前から残る当社神苑の景観を、現在においても楽しむことができる庭園です。</p> <p>○伊奈富神社庭園 (通称: 七島池) : 神社境内地の南東部、神社参道の南側に位置し、神社参拝者は必ず目にします。東西に細長い池 (東西約 70m、南北約 15m ほど) に大小七つの島を配する姿から七島池 (ななしまいけ) と呼ばれます。池・島岸は護岸施設を持たず、池を掘り上げた土を盛り上げた「素掘りの池島」です。築造時期は、神社の社伝では平安時代に弘法大師が一夜で作ったと伝わり、発掘調査では、少なくとも鎌倉時代までは遡ると確認されています。室町時代後期、江戸時代中期 (享保年間) の 2 つの絵図に、現在と基本的な構成が同じ七島池、境内地の社殿・参道・集落等の配置関係が確認でき、500 年以上前の庭園・境内地の姿が今に残っていることがわかります。昭和 57 年に三重県指定名勝の指定を受けました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="391 1066 769 1352"></div> <div data-bbox="778 1066 1161 1352"></div> <div data-bbox="1171 1032 1442 1352"></div> </div> <p style="display: flex; justify-content: space-around;"> 七島池とムラサキツツジ (南東から) 七島池 (北西上から) ツツジ山の園路 (東から) </p> <p>○稲生山の躑躅 (いのうやまのつつじ) (通称: ツツジ山) : 庭園北側の境内地はムラサキツツジの群生地として知られ、昭和 12 年に三重県指定名勝の指定を受けました。江戸時代中期の絵図 (絵図 B) では、境内地にムラサキツツジが描かれ、七島池では島ごとに草本類を植え分けているようであり、人々がその美しさを楽しんでいたと推測されます。</p> <p>○伊奈富神社 : 社伝によると崇神天皇 5 年にこの地に鎮座したのが始まりと伝えられています。神社に伝わる平安時代前期以降、近世に至るまでの有形・無形の国・三重県指定文化財は、その歴史を物語っています。</p>		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<p>【伊勢街道周辺を活性化し、賑わいを創ること】</p> <p>近代以降の制作と考える絵図は、伊勢参宮道の神戸・上野間の近道として当社が所在する稲生地区を通る「稲生往来」があり、当社境内地はムラサキツツジの名所「花山地」として紹介しています。当時のガイドマップであり、伊勢参宮街道を通りお伊勢参りに行きかう方々に来訪を案内していたと推測されます。江戸時代中期の絵図からは、人々が七島池やツツジ山の景観を美しいと意識し、楽しんでいた様子が伺え、江戸時代のお伊勢参りの際にも参拝者が訪れていたと推測されます。</p> <p>神社では、恒例の神社祭礼に際し、各種の神賑行事を継続実施しています。また、神社所有の指定文化財の一部について、可能な範囲で随時の拝観公開を行うなど、神社や所有する文化財の価値や魅力を発信し、その保存と活用に向けた理解を得る取り組みを行っています。七島池では、広い年代・地域の方々の参加型</p>		

の補修作業（島の盛土作業等）の実施も検討しています。

これらの行事は、地元だけではなく、遠方からの来訪者も参加可能です。

今後、かつてのお伊勢参りの復活に向け、これらの行事等に合わせた鈴鹿地域の見どころや食事をめぐるツアーコース、また伊勢参宮街道沿いに位置する本協議会参画庭園やその行事等とも連携したツアーコースの検討・提案・実施を目指します。

【主な神社行事】

4月16日の例大祭の前後： つつじまつり / 奉祝マルシェ・クイズラリー・雅楽奉納・文化財探訪サロン（神社禰宜のガイド案内による神社所蔵文化財の特別拝観）など



表参道 マルシェの出店
(北西から、向かって右手側
に七島池)



雅楽奉納 (南西から)
文化財探訪サロン→
神社禰宜による説明 (北東から)



獅子神楽奉納 (南西から)



7月中旬： 天王祭 / 子ども提灯参り・明かりの夕べ（行燈奉納による参道のライトアップ）・賑わい踊り（盆踊り）・出店など

10月中旬： 稲生の秋祭り / 奉祝マルシェ・観月会（雅楽奉納）・境内ライトアップなど



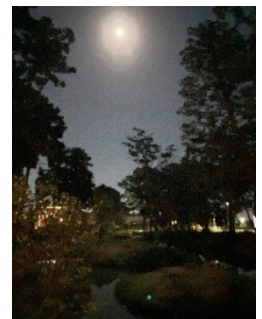
天王祭 神賑踊り（盆踊り）



観月会 雅楽奉納 (南から)



境内ライトアップ
(表参道、西から)








満月に照らされる七島池
(西から)

不定期（2～3年に1回程度を予定）： 七島池 島の盛土の補修作業








四季折々に変化する七島池やつつじ山の神社の景観は、神社を訪れる方々に景観の変化を感じる楽しみや心の安らぎを感じさせるものです。

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	しんしゅうたかだほんざん せんじゆじ 真宗高田派本山 専修寺 うんゆうえん 雲幽園	構成庭園の 所在地	三重県津市一身田町 2819 番地
4 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】 10,750 (㎡) 【案内料金】 500 円 【公開時期】 年中無休 (完全予約制) (雨天入園不可) 【施設管理者】 真宗高田派本山 専修寺 【その他】</p> <p>雲幽園は中心の池を巡って歩く回遊式庭園と茶室である安楽庵で構成されています。入口から右へ、竹藪の間の苔むした道を進むと、茅葺の門があります。そこから右手に進むと、杉苔が草むした広いお庭で、向うに安楽庵の書院が見えて、静寂そのものです。</p> <p>道を左手にとると、潜り門があって、そこからが内露路です。砂雪隠や待合があって、茶席へつづくあたりは石の配置一つにも趣向が凝らされていて、この庭の大きなポイントです。</p> <p>樹の間がくれに見る中の島も風情があります。</p> <p>水際にも石組を全く使わない州浜形で、言わば自然そのままの姿が楽しめます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; text-align: center;"> <div data-bbox="421 927 651 1115"> <p>雲幽園の門</p>  </div> <div data-bbox="663 927 893 1115"> <p>杉苔</p>  </div> <div data-bbox="906 927 1136 1115"> <p>潜り門</p>  </div> <div data-bbox="1149 927 1378 1115"> <p>安楽庵</p>  </div> </div> <p>安楽庵は茅葺屋根の瀟洒な建物で、踏石の左上に刀掛けの棚があり、むかし武士はここへ刀を掛けて入りました。入口はいわゆる「にじり口」で六十センチ四方ほどの狭いところからにじり寄って入ります。</p> <p>千利休の長男道安と織田信長の弟有楽斎長益の二人の高名な茶人の工夫が中心になった茶室なので「安楽庵」という名がついたようです。</p>		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<p>【伊勢別街道周辺を活性化し、賑わいを創ること】</p> <p>真宗高田派本山 専修寺は親鸞聖人を開山とする寺院で、三重県津市一身田にあり、伊勢別街道と東海道の交わる場所柄、古くからお伊勢参りの際に参拝される寺院として栄えました。</p> <p>広大な境内には三重県唯一の国宝建造物である「如来堂」「御影堂(みえいどう)」をはじめ、十一棟の重要文化財を所有する古刹寺院です。</p> <p>国宝建造物の背後に広がる趣深い雲幽園は映画のロケ地としても注目を集めています。</p> <p>専修寺周辺の土地を寺内町と呼び、一身田寺内町は環濠がほぼ完全な形で現存しており、古くからの街並みが残されています。</p> <p>伊勢別街道沿いには窪田の常夜燈があり、かつて近江国から伊勢神宮に寄進される際に利用されていた名残を確認することが出来ます。</p> <p>専修寺では毎月 16 日は親鸞聖人の月命日として御参廟と朝粥(2月～12月)を行っており、朝の勤行後には通常非公開の雲幽園を特別に見学できます。</p> <p>また、寺内町の和菓子屋 4 店舗が協力した報恩菓は毎月テーマを替え季節の和菓子を楽しめます。</p> <p>団体ツアーなども多く受け入れており、名古屋方面や大阪方面などから伊勢神宮に参拝をされる際の立ち寄り場所として今でも利用されています。</p> <p>今回の計画により更なる参拝者の増加が見込まれ、寺内町周辺に人の流れもできるので地域活性化します。</p> <div style="text-align: right;">  </div>		

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	きたばたけしやかたあとていえん 北畠氏館跡庭園	構成庭園の 所在地	三重県津市美杉町上多気 1148
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】約850坪 【入園料金】一般500円 高校生以上の学生300円 20名以上400円 【公開時期】通年公開 休園日：第二第四水曜日 (祝日・北畠神社祭典日と重なる場合は翌木曜日) お盆時期・紅葉シーズンは開園 【施設管理者】北畠神社 【その他】</p> <p>北畠氏館跡庭園は、北畠神社の神苑の一部で伊勢国司・北畠氏居館の遺跡である。享祿3年(1530年)関東管領・細川高国(第7代国司・北畠晴具卿の岳父)によって作庭されたと伝えられており、昭和11年に国の名勝史跡の指定を受けている。</p> <p>武家書院庭園で、池泉鑑賞様式となっており、池の汀線が複雑に屈曲しているため「米字池」と呼ばれ、その護岸の石が大きく堅牢であるのが特徴である。</p> <p>なだらかな稜線の築山には杉の巨木が立ち、その山裾には枯山水が築かれている。中央に約1.9mの立石(孔子岩)が立ち、これを取り巻く10数個の石群がひれ伏すように散在し、真上から見ると渦巻上に配置されており、この石組は専門家からも評価が高い。</p> <p>室町時代の庭園としては珍しい素朴で豪放、野性的な庭園で、三大武将庭園(『一乗谷朝倉氏庭園』【福井県】・『旧秀隣寺庭園』【滋賀県】)のひとつとしても知られる。</p> <p>またモミジなどの樹々も多く、春～夏は新緑、秋は紅葉のスポットとしても名高く、他、近年は苔が美しい庭園とも知られる。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>春～夏 新緑の頃</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>米字池と紅葉</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>雪景色の枯山水</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 20px;"> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="text-align: center;">  </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">枯山水と紅葉</p>		

【イベント】

・ 11月中旬～下旬頃 庭園のライトアップ（ライトアップ実行委員会）
紅葉シーズンには期間限定で、『寂庭の宴』と称した庭園のライトアップが行われます。水鏡が美しく、米字池に映し出される『逆さ紅葉』は見応えがあります。枯山水もライトアップされ、昼間とは違った表情が見られます。



水鏡に映る逆さ紅葉



闇に浮かぶ枯山水

・ 9月下旬頃 霧山薪能（津市 霧山薪能実行委員会）
庭園を背景に神社境内に特設舞台を組み、幽玄な雰囲気の中、能が演じられます。北畠氏の歴史の重みに思いを馳せつつ、武将庭園の前に、かがり火を焚き伝統ある芸術に触れることができます。



計画のテーマでの位置づけ
(※3)

【伊勢本街道周辺を活性化し、賑わいを創ること】

この多気の地域は大和と伊勢神宮を繋ぐ伊勢本街道が通っており、南北朝時代以降、北畠氏が伊勢国司として活躍した頃、この地域は北畠氏の居館を中心に城下町として栄えたとされています。

またお伊勢参りが盛んになった頃、多くの参宮客がこの街道を利用し、宿場町が作られ、この地域は大変賑わいました。

この地域には『伊勢本街道を活かした地域づくり協議会』があり、季節のイベントを通じ、歴史や自然、地域の人たちとの交流を図っています。また、江戸時代のお伊勢参り、抜け参りの人たちを支えた宿場町「石名原宿」「奥津宿」「多気宿」があり、当時の名残を残しつつ、屋号札を掲げて、街並みの情緒を残しています。




協議会としては、「伊勢本街道を歩く」というウォーキングイベントを季節毎に各地域の見どころを案内し開催しており、これからも街道沿いの賑わい創出に貢献していきます。

☆春（3月）石名原宿
灯籠巡り・ 三多気の桜・ミツマタの群生地・女郎石

☆夏（8月）奥津宿
宿場町巡り・あまごつかみ
若宮八幡宮・八幡神社

☆秋（11月）多気宿
北畠神社・遊郭跡・役行者などの散策し、「街道鍋」（猪鍋）などの振舞
町屋宿・谷町宿

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	きゅうはせがわじろべえけ 旧長谷川治郎兵衛家	構成庭園の 所在地	三重県松阪市魚町 1653 番地 殿町 1317-1 番地 殿町 1317-18 番地
6 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】 4,688.4㎡ 【入園料金】 一般400円(20名以上の団体330円)、6～18歳200円(160円) 【公開時期】 通年公開(水曜日 年末年始は休館。水曜日が祝日の場合は翌平日) 【施設所有者】 松阪市 【施設管理者】 特定非営利活動法人 松阪歴史文化舎 【その他】 ホームページ https://matsusaka-rekibun.com/</p> <p>長谷川家は、延宝3年(1675)創業の木綿問屋の老舗であり、江戸時代には江戸大伝馬町一丁目に5店舗、三州平坂(愛知県西尾市)に1店舗を構えました。松阪の邸宅は主人と家族の生活の場であり、敷地の中央を南北に流れる排水路を境に、東側が町家の魚町、西側が武家町の殿町になります。</p> <p>魚町側にある江戸前期から大正期に築造された主屋・土蔵等の建物群は、国指定重要文化財に指定されています。この主屋の大座敷と大正座敷の前には、閑静なこぢんまりとした庭園を設えています。</p> <p>紀州藩勢州奉行所跡であった殿町側の土地は明治前期に購入し、明治中期に池泉回遊式の日本庭園を中心として、離れ座敷・稲荷社・四阿(国指定重要文化財)等を築造しました。離れ座敷には四畳半の茶室が付設され、座敷に座って庭園を眺めると、築山を右手に見て、正面には借景をなす松坂城跡を望めるように設計されています。庭園内には、春から夏にはサクラやスイレン、秋にはモミジやドウダンツツジ等の花木が四季折々の風情を醸し出しています。魚町・殿町の敷地全体が、三重県指定史跡及び名勝に指定されています。</p>		
  			

計画のテーマでの位置づけ
(※3)

【伊勢街道と長谷川家】

松阪は、江戸時代には伊勢街道や和歌山街道の宿場町として栄えました。文芸を嗜む長谷川家の当主は、江戸や京都・大阪の著名な文人たちを伊勢参宮に誘い、自家に滞在させて歌会や句会・古典講釈等に興じました。また、明治以降は皇族の方々の宿泊や休憩施設として大正座敷等が利用され、今もその時の記録や道具類、宮家から御札として下賜された品々が残されています。

また、伊勢参りの時には、参宮街道を1日2万人余りが行き交いました。松阪には、一晩に何千人も宿泊することになり、旅館に泊まらない旅人は橋の下や河原、路地などで、野宿しました。そのような旅人のために伊勢街道沿いの豪商は、炊き出しの施行を行い、おにぎり、茶、草鞋、路銀等を提供したといえます。長谷川家も路銀等を提供した文書が残ります。

松阪の富商の家では、伊勢神宮の御札が降下し、その家は近隣に料理やお酒を振る舞ったとあります。長谷川家や小津清左衛門家の座敷の庇へ降下した伊勢神宮の御札も現存し、長谷川家ではお礼参り、小津家では饗応をしています。

【伊勢街道周辺を活性化し、賑わいを創ること】

伊勢街道沿いのこのようなおもてなしの心が、街道沿いに残る祭りや歴史文化とともに、人を癒やし私たちの心を魅了します。旧長谷川治郎兵衛家では、「抹茶体験」「火用心印刷体験」「機織り体験」「糸繰り体験」や夜のライトアップなど様々な企画で持って歴史や文化、情報の行き交う賑やかな街道の再現に挑戦しています。

伊勢神宮への参拝者に街道沿いの庭園をはじめ、食や伝統工芸などにも触れていただくことで、街道全体を盛り上げ、人の心の活性化等、私たちの暮らしや心を豊かにすることをめざします。



抹茶体験



機織り体験



松阪学入門講座



「火用心」印刷体験



藍のたたき染め体験



秋の夜長の雅楽の調べ

構成庭園一覧表

ふりがな 構成庭園 の名称 (※1)	げんこうしゃ 玄甲舎 (金森得水 別邸兼茶室)	構成庭園の 所在地	三重県度会郡玉城町佐田 151-22
1 構成庭園 の概要 (※2)	<p>【開園面積】826.44 (m²) 【入園料金】大人 200 円、高校生以下・障がい者手帳をお持ちの方無料 【公開時期】毎週火曜・年末年始(12/29~1/3)以外 【施設管理者】町 【その他】玄甲舎パンフレット：玉城町発行 玉城町 HP https://kizuna.town.tamaki.mie.jp/bunkasports/kanko/genkosha.html</p> <p>玄甲舎は弘化4年(1847年)に、田丸町佐田に建設された金森得水の茶室兼別邸。得水は、江戸時代後期に田丸城主久野丹波守の家老として政務を執り行うかたわら、千利休から続く表千家の千宗左に茶道を学んだ。築後170年以上が経過した玄甲舎及び敷地を町指定史跡とし、平成27年から29年にかけて建物部分の改修、令和元年度に庭園の復元整備を行った。玄甲舎の築造には、千利休が営んだ「残月亭」や「不審庵」などを再建した大工・庄五郎が関わっており、全国で唯一庄五郎の作風を残す建物といわれている。庭園部分は約250坪で、発掘調査などを行い当時の状態に近くなるよう復元されている。庭園には石灯籠や蹲踞を備える。木々の間には大小の奇・怪石を取り混ぜた飛び石が置かれ、南側に広がる国東山系の山並みや東面の鷲嶺を借景としている。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>庭園</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>茶室</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>地図</p> </div> </div> <p>*金森得水について 江戸時代後期、久野家の家老の一人として、藩政を預かる。財政的に行き詰った田丸領を立て直すため、新田の開墾や茶、桑の振興にも努めた。また、国学を本居大平、茶道を表千家10代吸江斎、書道や和歌を有栖川宮幟仁親王の門下として学ぶ。日本古式泳法「小池流泳法」の師範として、久野家家臣の子弟たちの指導にもあたった。</p>		
計画のテーマでの 位置づけ (※3)	<p>【伊勢本街道、熊野古道伊勢路を活性化し、さらなる賑わいを目指す】 玉城町は伊勢本街道、はせ街道、熊野街道(熊野古道伊勢路)の合流地点であり、分かれ道です。熊野古道伊勢路は古くは平安時代から往来があったことが歌謡集『梁塵秘抄』からもわかります。江戸時代における信仰の旅は多くの宗教施設を回ってくるという形態が中心になります。江戸よりお伊勢参りに来た旅人は、そのまま帰路につく者と伊勢路を通過して西国三十三所巡りの旅に行く者とで分かれ、後者は玉城町で準備をするため、玉城町は出立の地でもあります。 現在は、当時の面影を残すものは少なくなっていますが、町内には石仏庵という西国三十三所巡りに関する石造物群も残っており、また玄甲舎より続く道にも所々熊野古道や伊勢本街道の道標が残っています。 玄甲舎の元の持ち主であった金森得水是茶道や俳句を嗜む文化人であり、金森家史料として、1万6千点余りの文書群があり、その中に『那智山瀧歌百首』があります。この歌集は得水自らが詠んだ熊野那智に関する歌集で、その中には熊野古道伊勢路に関する歌もある事から、得水が実際に熊野古道伊勢路を歩いたと考えられます。 また、令和5年度末に玄甲舎の蔵に金森得水ゆかりの品を展示するスペースを設けました。街道とのつながりがわかる資料は少ないですが、街道の往来が盛んであった時代、街道分岐点を擁する町の要職者のコレクションを見ていただくことで、さらなる賑わいを目指します。</p>		

その他計画の実施にあたって必要な事項

「現代版のお伊勢参り」を旅行者が体験する上で、魅力ある庭園等のほか、古くから街道沿いに存在する食文化や歴史、伝統・文化、産業のほか、街道付近に存在する花の名所等を紹介し、これらを構成庭園等と組み合わせることにより、三重県にしかないガーデンツーリズムを推進します。

1. 街道で育まれた三重の食文化

①桑名のはまぐり（桑名市）

桑名といえば、「その手はくわなの焼きはまぐり」の地口（江戸の洒落言葉）で知られるはまぐりが代名詞。江戸時代には徳川将軍家へ献上されるなど、その品質とおいしさが古くからあがめられてきました。桑名の地はまぐりは、希少価値の高い「ヤマトハマグリ」という日本古来種で、穏やかな内湾の汽水域で育つことから殻が薄く、身はぷっくりとして柔らか。ほどよい塩気とたっぷりのうまみを含み、国内流通の9割を占める輸入はまぐりとの違いは歴然で、「桑名のはまぐりを食べたらほかのものは食べられない」といわれるほどです。



②僧兵鍋（菰野町）

御在所岳の麓にあった天台宗三嶽寺には戦国時代、武装した300人余りの僧兵がいたといわれております。荒法師の勇気、正義感をたたえ、毎年10月上旬、僧兵に扮（ふん）した住民等が「火炎みこし」で温泉街を練り歩く勇壮な「僧兵まつり」が繰り広げられています。かつて関西・中京の奥座敷と呼ばれた菰野（こもの）町の湯の山温泉では、僧兵たちがスタミナ源として食べていたといわれる「僧兵鍋」が各旅館で振舞われています。山の幸や猪などの肉を中心とした具材を、数種類の味噌で煮込んだお鍋です。



③清水清三郎商店（鈴鹿市）

三重県の鈴鹿は、かつてより旨い酒を醸す地であることから、味酒鈴鹿國（うまさけずずかのくに）と呼ばれてきました。また、現代における辞書「大辞林」（三省堂刊）にも、「うまさけ」と引くと「うまい酒の地」「酒の産地」として有名な鈴鹿にかかる枕詞」と掲載されていることから、はるか古の時代から鈴鹿は美味しい酒を造る味酒の地であったとしてこの語が広く知れ渡っていたことが伺い知れます。清水清三郎商店は、1869年（明治二年）に大黒屋清水清三郎商店としてこの地に創業して以来約150年の歴史ある酒蔵です。



④津のうなぎ料理（津市）

かつて沿岸部に多くの養鰻池があったことから、津市内には今でも 20 店舗以上の鰻料理店があります。各店ごとにタレの味、調理法も様々で、津市民に親しまれる味として平成 17 年には、一人当たりの消費量が日本一になったこともあります。



⑤松阪牛（松阪市）

日本三大和牛のひとつ、松阪牛。「肉の芸術品」と称される牛肉の最高級ブランドです。きめの細かい霜降と箸で切れるほど柔らかな肉質、甘みのある香り。その味わいはまさに“口福”。とろける甘い脂と濃厚なうまみが口いっぱいに広がります。



⑥伊勢うどん（伊勢市）

伊勢神宮へ参拝に長旅をしてきた参拝客の胃腸に優しいエネルギー源として、江戸時代に生まれた元祖ファーストフード。太くて柔らかい麺を、出汁と伊勢だまりを合わせた独特の色の濃いタレで食べます。



⑦岩戸の塩工房（伊勢市）

二見浦の伝統と自然を活かし、海水から組み上げた天然の塩を作っています。岩戸の塩は海水のみを原料にし、他の塩やにがり、固結防止のための添加物は一切使用していない純国産自然海塩です。豊かな自然の恵みを活かした「岩戸の塩」は、人が本来必要としている海の栄養分をたっぷり含んだ、体にやさしい塩です。



2. 街道で受け継がれてきた歴史、伝統・文化、産業

⑧七里の渡し跡（桑名市）

熱田・宮の渡しから海上七里を船に乗り、桑名の渡しに着いたことから「七里の渡し」と呼ばれています。当時は、東海道の 42 番目の宿場町として大賑わいを見せていました。ここにある大鳥居は、これより伊勢路に入ることから「伊勢国一の鳥居」と称され、伊勢神宮の遷宮ごとに建て替えられています。



⑨国営木曾三川公園（三重県桑名市・岐阜県海津市・各務原市・羽島市、愛知県一宮市・江南市・稲沢市・愛西市）

木曾川・長良川・揖斐川の木曾三川が有する広大なオープンスペースと豊かな自然環境を活用した日本一広い国営公園です。13 拠点が開園しており、桑名七里の渡し公園もその一つです。



⑩桑名寺町通り商店街の三八市（桑名市）

毎月 3 と 8 のつく日に開催される朝市「三八市」が名物。アーケードを人が埋め尽くす、東海エリア屈指の元気な商店街です。桑名名物のしぐれ店や土産物店のほか、食料品店、総菜店、雑貨店などがずらり。食べ歩きもおすすめです。



⑪湯の山温泉（菰野町）

開湯 1300 年の歴史ある温泉です。御在所の自然に囲まれた湯の山温泉は、アルカリ性ラジウム泉で昔から胃腸病、神経痛、外傷などに効能があるといわれており、また美肌の湯としても知られています。地元の食材を使ったお料理や国の有形文化財に指定されている建造物などを楽しんでいただけます。温泉街へは近鉄湯の山温泉駅からバスが出ています。



⑫鈴鹿墨（鈴鹿市）

鈴鹿墨は、墨として日本で初めて伝統的工芸品の指定を受けた名誉ある墨です。発色が良く、上品で深みがあり、基線とにじみが調和するという特徴があります。手作業でひとつひとつ丁寧に作られた鈴鹿墨は、墨下りがなめらかで多くの書道家に愛用されている逸品です。創意工夫を行い、鮮やかな色彩墨、鈴鹿墨の染物やお香、建築塗料など、鈴鹿墨を活用したさまざまな商品開発に取り組んでいます。



⑬伊勢型紙（鈴鹿市）

伊勢型紙は、着物や浴衣などの生地に柄や文様を染めるための型として用いられ、千年余りの歴史を誇る伝統的工芸品（用具）です。美濃和紙を柿渋で張り合わせた型地紙に、彫刻師が全て手作業で文様を彫り抜くため、高度な技術と忍耐が必要です。近年では、本来の用途である染型紙だけでなく、美術工芸品やインテリア等に幅を広げ、伊勢型紙のデザインと伝統技術を活かした商品開発が進められています。



⑭おぼろタオル（津市）

今治・泉州と並んで日本3大タオルの一つと称されています。糸がやわらかく肌触りがよく、吸水性と速乾性に優れています。



⑮伊勢木綿（津市）

江戸時代、地域の農家の副業として始まり、津藩主藤堂高虎公の奨励より盛んに生産されました。紺木綿と縞木綿の2種類があります。伊勢木綿は先染め木綿ともいわれ、織る前に糸を染める特徴があります。



⑯旧小津清左衛門家（松阪市）

江戸で一番の紙問屋、豪商・小津清左衛門家の邸宅を資料館として公開。格子と矢来のある質素な外観からすると意外なほど広い屋敷内には、2つの土蔵も残っています。展示品の中には「千両箱」ならぬ「万両箱」もあり、「江戸店持ち伊勢商人」の暮らしぶりが偲べれます。



⑰松阪もめん（松阪市）

正あい染めの糸を使い、縞模様が特色。素朴な風合いです。反物はもちろん、ネクタイ・財布・コースター等の小物などに人気があります。早くから江戸に進出した松阪商人が売りさばいたのと、お伊勢まいるの土産として全国に広まったので、「松阪もめん」は当時の江戸庶民の粹なファッションとなりました。



⑱田丸城跡（玉城町）

延元元年（1336）年、北畠親房が築城し、天正3（1575）年には、織田信長の伊勢侵攻に伴い、北畠氏を継いだ織田信雄（のぶかつ）が三層の天守を築き城主となり、明治維新で廃城となった南伊勢随一の名城、三重県指定文化財・史跡続日本100名城「田丸城跡」が玉城町のシンボルとなっています。



⑲擬革紙（玉城町）

擬革紙とは、革に擬（なぞら）えた紙のことです。この技術はおおよそ350年前に生まれました。三重県伊勢周辺は擬革紙の一大産地でしたが、刻み煙草が紙巻煙草にかわり皮革や新素材が出回りはじめ、昭和初期には生産されなくなりました。そして、その技術は途絶えてしまいました。擬革紙の製法は口伝であったことから、文章による資料がほとんど残されていません。参宮ブランド「擬革紙」の会により、現物資料をもとに紙を分析し道具を再現して、途絶えた技術の一つ一つ今にたぐりよせ、「伊勢擬革紙」として再興を進めています。



⑳おはらい町・おかげ横丁（伊勢市）

伊勢神宮内宮の宇治橋前から猿田彦神社方面へ真っすぐ続く通りが「おはらい町」です。宇治橋から五十鈴川に沿って続くおおよそ800mの美しい石畳の通りには、お伊勢さん特有の切妻・妻入り様式の町並みが軒を連ねます。通りにはたくさんの土産物店・飲食店や商家が建ち並び、参拝後の町歩きが楽しめます。また、神宮道場や旧慶光院客殿などの歴史的建造物などもあり、お伊勢さんらしいレトロな雰囲気がつっぷり詰まっています。おはらい町の中程、赤福本店前あたりの横丁一画が「おかげ横丁」。江戸期から明治期にかけての伊勢路の代表的な建築物が移築・再現されており、まるで江戸時代にタイムスリップしたかのようです。約4000坪の敷地内には、伊勢志摩ならではの食べ物屋やおみやげもの屋が建ち並び、どのお店も魅力満載です。



3. 街道付近の花の名所等

②①諸戸氏庭園（桑名市）

明治時代に諸戸清六の所有となり、西隣に新しく御殿を建て、庭園を拡張しました。御殿の玄関は当時の外務省の玄関を模し、広間は西本願寺の広間を模していると言われています。庭園の池は「潮入りの池」と称され、海水の干満に応じて景観が変化します。



②②なばなの里（桑名市）

季節ごとに変化する美しい花々が咲き誇る花のテーマパークです。日本最大級の敷地面積を誇る約 43,000 平方メートルの花ひろばでは、春はチューリップやネモフィラ、秋はコスモスやダリアが見頃を迎えます。また、ベゴニアをはじめ世界各国から集めた数百種・約 12,000 株の花々を見られる大温室「ベゴニアガーデン」は、花々に包み込まれる絵画のような世界が広がります。冬季を中心に開催される「なばなの里イルミネーション」は、国内最大級のスケールで幻想的な光に包まれ、来場される人を大いに魅了します。



②③御在所ロープウェイから見下ろす紅葉（菰野町）

鈴鹿山脈の主峰をなす標高 1,212mの御在所岳山上と麓を結ぶロープウェイ。全長 2,161m、高低差 780m、所要時間は約 15 分です。ゴンドラから見える大パノラマの絶景をお楽しみいただけます。御在所岳の豊かな自然が育む様々な植物。「地蔵岩」をはじめとした奇岩、巨岩。運が良ければ特別天然記念物であるニホンカモシカの姿も見られます。山上の展望レストラン「ナチュラル」では絶景を見ながら食事を楽しめます。



②④三重県指定名勝稲生山の躑躅（つつじ）（鈴鹿市）

伊奈富神社境内地である稲生山は、毎年春にムラサキツツジ（和名・コバノミツバツツジ）が咲き誇り「紫雲がたなびくような美しさ」とも言われる景勝地です（三重県指定名勝）。開花時期である 4 月上旬から御例祭の 4 月 16 日頃、神社では「つつじまつり」が開催され、雅楽の奉納演奏や奉祝マルシェ、御例祭祭典後の餅撒きなどで賑わいます。3 年に 1 度の式年大祭では獅子舞も舞われ、穏やかな稲生の里の春の風情を楽しめます。



②⑤鈴鹿の森庭園（鈴鹿市）

日本の伝統園芸文化のひとつであるしだれ梅の「仕立て技術」の存続と普及を目的とする研究栽培農園です（運営/赤塚植物園グループ）。「呉服枝垂（くれは）しだれ」を中心に、巧みの技と歴史が受け継がれた梅の名木が約 200 本。毎年、開花時期に合わせて一般公開しています。中には「天の龍」「地の龍」と名付けられた日本最古と思われる 2 本のしだれ梅の古木もあります。



②⑥レッドヒルヒーサーの森（津市）

シクナゲを中心に約 1,000 品種 1 万本以上の花木を楽しむことができる里山です。広さ約 60,000 m²の園内には世界一のつぼの木とよばれる「センペルセコイア」の大木が育ち、野山をかけめぐる「森のエリア」と、ローズガーデンやスイレンの咲く池が魅力の「花のエリア」があり、大自然の恵みを感じることができます。



②⑦松阪農業公園ベルファーム（松阪市）

「食育」「緑育」「健育」をコンセプトにした農業公園です。四季折々の花が咲く「イングリッシュガーデン」、新鮮な地元野菜を直売する「農家市場」、様々な体験ができる「まなびの工房」、お土産売り場や食材にこだわった飲食店が併設しています。園内では毎年様々なイベントを開催致します。3つの池（鬼ヶ窪池・笹池・四郷池）を中心に自然道の一部ビオトープとして整備。池の堤には色とりどりの花が咲き、自然を満喫しながら約 1.3km の遊歩道を散策できます。



②⑧大賀蓮（おおがはす）（玉城町）

大賀ハス（蓮）とは、昭和 26 年、千葉市の東京大学農学部検見川厚生農場で、ハス博士といわれた故「大賀一郎」博士（当時関東学院大学教授）が、縄文時代に咲いていた古代ハスの種三粒を発見し、そのうちの一粒の開花に成功したものとされています。この大賀ハスは、平成の初め頃、故加藤正文氏（勝田町）から寄贈された大賀ハスの種、蓮根を水槽に入れて栽培し開花したものです。そのハスを田丸城築城 670 周年記念として内堀に移植しました。



②9神宮ばら園（伊勢市）

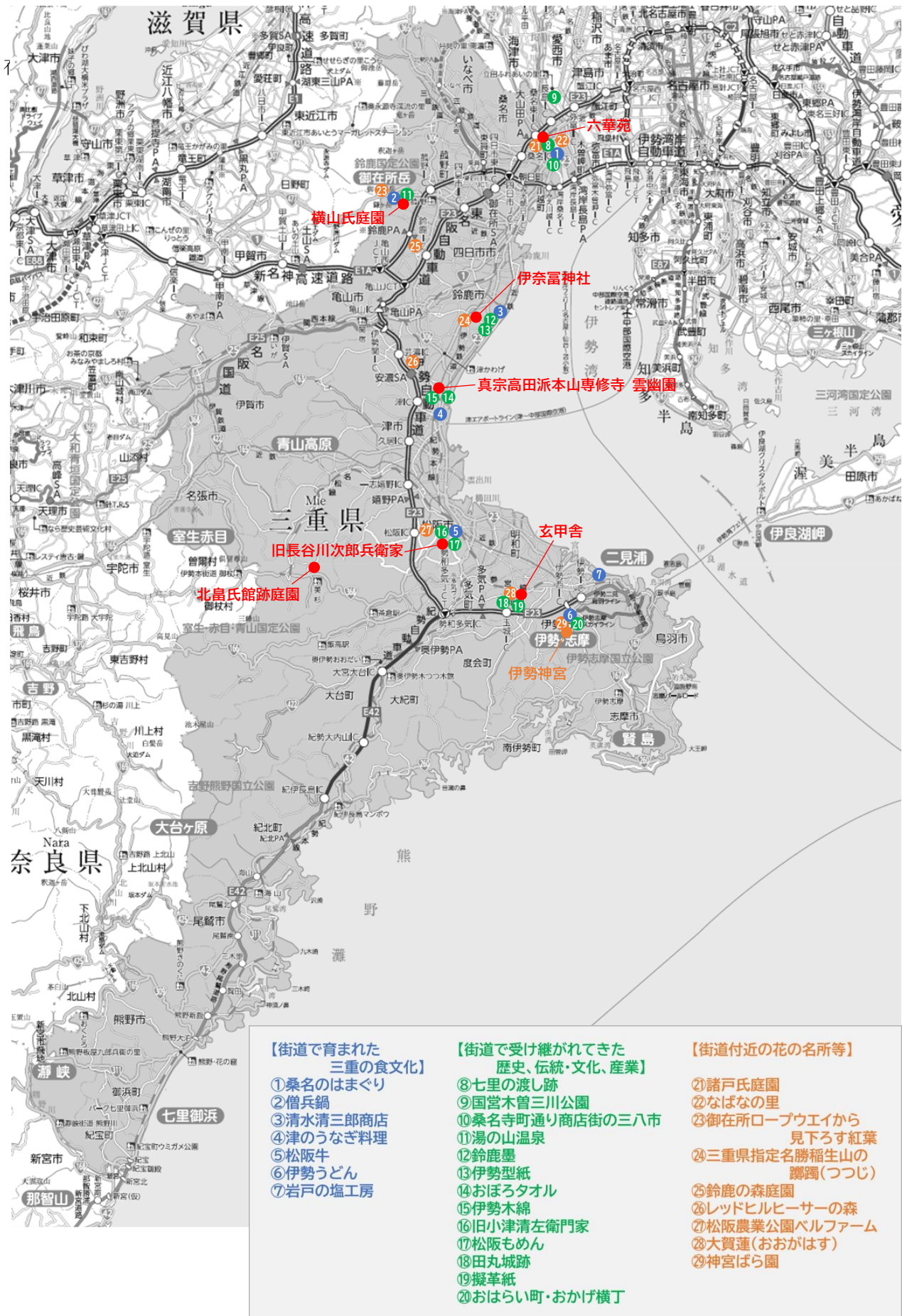
例年春と秋の2回、見頃を迎える広さ約1,000㎡のばら園。つるのバラのトンネルアーチをくぐった園内には、休憩舎と散歩道が設けられ、皇族の名を冠したバラ『プリンセスローズ』をはじめ、150種類、450株が咲き乱れます。



【参考／引用した公式サイト】

- ・桑名市
- ・津市
- ・菰野町
- ・玉城町
- ・一般社団法人菰野町観光協会
- ・一般社団法人鈴鹿市観光協会
- ・一般社団法人津市観光協会
- ・一般社団法人松阪市観光協会
- ・公益社団法人伊勢市観光協会
- ・公益社団法人三重県観光連盟
- ・清水清三郎商店株式会社
- ・伊奈富神社
- ・伊勢擬革紙

【参考】各庭園と街道沿いに存在する食文化や歴史・文化、産業、花の名所等との位置関係



実施する事業と実施体制

(1) これまでの取組

① 伊勢國お庭街道バスツアーの成功でガーデンツーリズム登録申請へ

中日文化センターの紀行講座（主催は中日ツアーズ）で伊勢國お庭街道バスツアーを企画した。令和6年8月29日に中日新聞社朝刊で（愛知県内版）で第一弾のツアーに関する紹介記事が掲載された。第一弾は、11月14日に名古屋栄発で、六華苑（桑名市）、横山氏庭園（菟野町）、北畠氏庭園（津市）の3庭園を巡るツアー。新聞記事の掲載効果で、予約開始10分で満席（28席）となり、当日にキャンセル待ちが124名出たので、予備日（11月28、29日、12月13日）を設定した。それも満席となり74名のキャンセル待ちが出たので、令和7年4月23日、24日、25日、5月28日、29日、30日、6月25日、26日、27日の追加ツアーを11月中旬に募集することとなった。第二弾は、同じく名古屋栄発で伊奈富神社（鈴鹿市）、専修寺（津市）、旧長谷川治郎兵衛家（松阪市）を巡るバスツアー（令和7年3月19日、4月25日）で11月中旬に募集開始した。なお、第三弾は、玄甲舎で呈茶体験後、伊勢神宮を参拝する予定。このように庭園を連携させることで三重県を周遊する新たな庭園巡り観光市場が生まれたので、ガーデンツーリズム登録への機運が高まり、今回の申請に至った。

中日新聞朝刊（愛知県内版）8月29日



第一弾ツアーのチラシ



② 中日新聞社「庭 The Garden」特集に北畠氏庭園が特集される

中部7県（三重県、愛知県、岐阜県、静岡県、滋賀県、長野県、福井県）を対象地域として月に1回、中日新聞社は、名園と言われる日本庭園を数年にわたり紹介する「庭 The Garden」特集を11月25日にスタートした。初回は、伊勢國お庭街道に参加する北畠氏庭園が選ばれ、見開き2ページでその魅力に加えて、伊勢國お庭街道ツアーについて紹介された。



③ ガーデンツーリズムに対する三重県の受け止め

- ・三重県議会一般質問（令和6年9月27日）
県内各地の庭園や花の名所等が、それぞれの良さを発揮しながら連携していただくことは、本県の新たな旅行目的の創出につながることから、国が進めるガーデンツーリズムの登録をめざして地域で協議会が組織される際などには、県としても参画し、広域的な視点で取組を支援していきたい。また、それぞれの庭園等の魅力を他の観光資源とともに広く発信することで、インバウンドを含めた観光誘客につなげてまいりたい。（観光部長の答弁）
- ・三重テレビ新春インタビュー（令和7年1月1日放送）
庭園や花、自然は国内外の旅行者にとって人気の旅行目的であり、周遊（各地の庭園や、食体験、花の名所などを結ぶ）を促すコンテンツであるガーデンツーリズムの推進は観光の盛り上げに資する。（知事のコメント）

④ 「みえガーデンツーリズム協議会」準備会議の開催

- | | | | |
|-----|---------------|-------------|------------|
| 第1回 | 令和6年10月9日（水） | 庭園管理者 | 場所：三重県庁会議室 |
| 第2回 | 令和6年10月18日（金） | 庭園管理者および自治体 | 場所：三重県庁会議室 |
| 第3回 | 令和6年11月21日（木） | 庭園管理者および自治体 | 場所：三重県庁会議室 |
| 第4回 | 令和6年12月20日（金） | 庭園管理者および自治体 | オンライン |

⑤ みえガーデンツーリズム協議会 第1回研修会

- 日時：令和7年2月4日（火）
場所：六華苑会議室
内容：「庭園管理者のおもてなしについて～六華苑の活用事例から～」
講師：石神教親（六華苑長）
見学：現在修理工事を行っている六華苑の庭園を見学
池の浚渫を行った直後で、池の水が無い状態をご覧いただく

（2）今後の取組

【令和7年度】

① 広報事業

- 1) 広報ツールの制作・・・伊勢国お庭街道のパンフレット、ホームページ、インスタグラム（言語：日・英）
- 2) セミナーの実施・・・伊勢国お庭街道の魅力発信
- 3) 伊勢国お庭街道の広報パートナー制度創設

② 共同キャンペーンツール制作（団体・個人）・・・伊勢国お庭街道のスマホお庭印企画

③ 伊勢国お庭街道ツアーの開発

- 1) 団体客：バスツアー（名古屋発）
- 2) 個人客：三重県内宿泊施設におけるオプションツアー開発
- 3) 東京発着のモデルツアー ※クラブツーリズムによる試行
- 4) 外国人観光客（特に欧米）向けのモデルツアーの実証実験 ※国の補助事業を活用予定

【令和8年度～令和11年度】

・伊勢国お庭街道 日帰り・宿泊バスツアーの実施

・参画庭園の拡大

※なお、令和9年度は「国際園芸博2027」にて、伊勢国お庭街道をPR（予定）

(3) 協議会の構成員

【会員（庭園）】

六華苑（桑名市）
横山氏庭園（菰野町）
伊奈富神社（鈴鹿市）
真宗高田本山専修寺雲幽園（津市）
北畠氏館跡庭園（津市）
旧長谷川治郎兵衛家（松阪市）
玄甲舎（玉城町）

【顧問】

一般社団法人日本ウォーキング協会専務理事 井上成美

【オブザーバー（自治体）】

三重県、桑名市、菰野町、鈴鹿市、津市、松阪市、玉城町

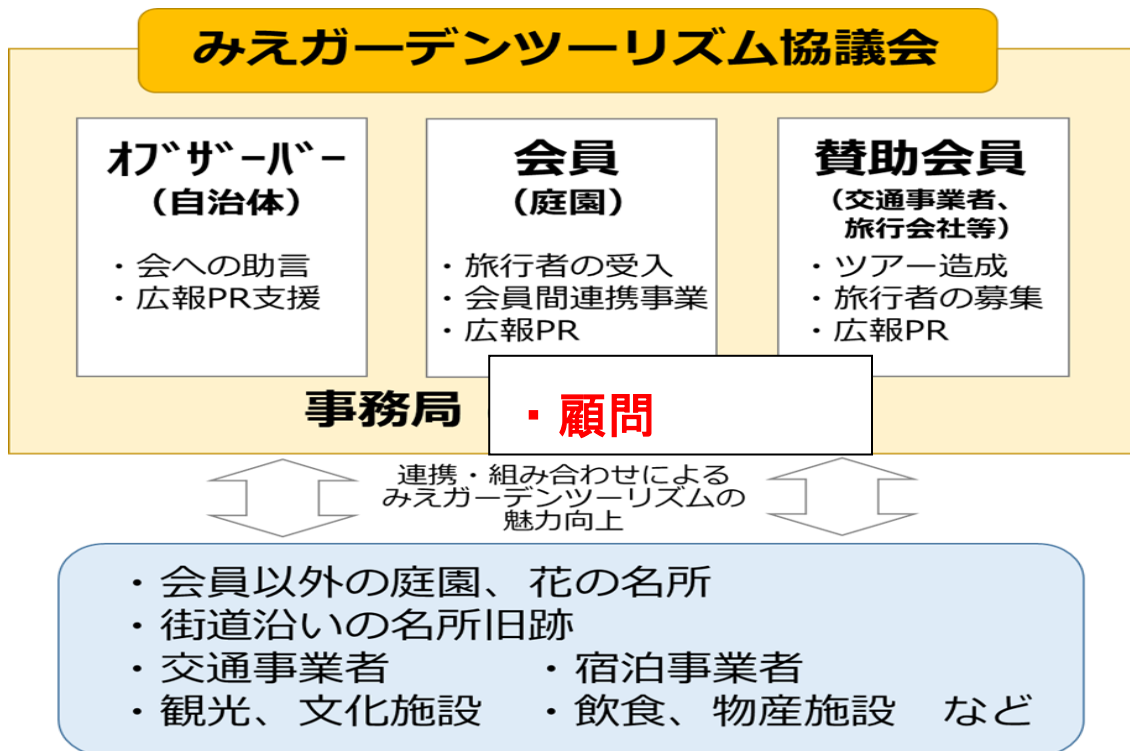
【賛助会員】

（鉄道事業者、バス事業者、旅行会社、広告会社等の参加を想定）

【事務局】

株式会社ワンピース

(4) 事業の実施体制



(5) 具体的な事業

様式1-9のとおり

具体的な事業一覧表

事業名①	広報事業		
実施主体	みえガーデンツーリズム協議会	事業期間	R 7 年度 ~ 1 1 年度
実施施設	伊勢國お庭街道に参画する庭園、三重テラス、パラミタミュージアムなど		
事業概要	<p>1) 伊勢國お庭街道の広報ツールの制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット：伊勢國お庭街道に参加する庭園の写真と説明および近隣のグルメ・レジャー情報を掲載する。 ・ホームページ：同上 ・インスタグラム：アカウント名：伊勢の國お庭街道（開設済み） 旅行者が自由に投稿できるようプラットフォーム化する。 <p>2) セミナーの実施</p> <p>伊勢國お庭街道が誕生したことを伝えるために東京と三重県でセミナーを実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師：涌井史郎氏（造園家・東京都市大学教授） ・対象：東京在京メディアと交通事業者、旅行ツアー企画会社など ・東京：三重テラス 2 階（日本橋）、三重県：パラミタミュージアム（菰野町） ・実施月：6 月 ・プレスリリースを発信してマスコミを招待し、パブリシティーを促すことで伊勢國お庭街道について東京（全国・海外）、地元三重県に対して情報発信を行う。報道されることで、さらに旅行会社がツアーを企画したり、出版社が伊勢國お庭街道の編集特集を企画することを促す。 <p>3) 伊勢國お庭街道の広報パートナー制度創設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊勢國お庭街道の広報活動を支援いただく企業スポンサーを募り、自社の広報活動に「伊勢國お庭街道」をテーマとしたコミュニケーション活動を実施していただく。 		


事業名②	共同キャンペーンツールの制作（団体ツアー客・個人客対象）		
実施主体	みえガーデンツーリズム協議会	事業期間	R 7 年度 ～ 1 1 年度
実施施設	伊勢國お庭街道に参画する庭園		

各庭園の周遊性を高めるために、スマホで購入できるデジタルお庭印を創る。寺社仏閣は、既存の御朱印をデジタル化し、御朱印のない庭園は、写真素材とする。ツアー参加者だけでなく、自家用車やレンタカーで来られる個人客の周遊を促すためのツールとしても活用する。活用するツールは、株式会社ビーグルー社がすでに開発運用している。


会社概要：<https://b-glue.jp/portal/wp/>

スマートお庭印の特徴

- ① ご購入者の操作で完結するので、お庭印に関する業務負担が軽減できます。
- ② GPSで制御されている為その場所に行かないと購入できません。
- ③ マイ御朱印帳の管理により収集意欲を高めます。
- ④ 各お庭の情報（由来や地図、アクセス等）や付近の観光情報などが表示でき、簡単検索可能です。
- ⑤ ブラウザ上で動くので、アプリのインストールが不要です。




ご購入者様のアクセス用QRコード板




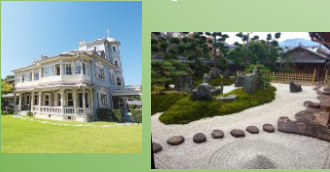
オリジナルデザインのスマートお庭印の例

※本サービスは、実用新案登録第3216989号を取得しています。

三重ガーデンツーリズム巡り



- M01:六華苑(桑名市)
- M02:横山氏庭園(菟野町)
- M03:伊奈富神社(鈴鹿市)
- M04:真宗高田派本山専修寺 雲幽園(津市)
- M05:北畠氏館跡庭園(津市)
- M06:旧長谷川治郎兵衛家(松阪市)
- M07:玄甲舎(玉城町)

事業名③	伊勢國お庭街道ツアーの開発		
実施主体	みえガーデンツーリズム協議会	事業期間	R 7 年度 ～ 1 1 年度
実施施設	伊勢國お庭街道に参画する庭園、宿泊施設、飲食施設、温泉など		

- 1) 団体客（国内）：バスツアー企画
- ・主催：中日ツアーズ（中日文化センターの紀行講座）
 - ・ターゲット：中京圏在住の60代～80代の歴史・文化に関心が高い方
- 名古屋駅発
- ・令和6年度に実施した通り、3回に分けてバスツアーを企画する
 - ・実施時期：春（4, 5, 6月）と秋（10, 11, 12月上旬と3月下旬）
 - ・募集：中日文化センターの折込チラシ
(令和7年春は2月28日、秋は9月予定)

伊勢國お庭街道 第1弾

伊勢國お庭街道 第2弾

伊勢國お庭街道 第一弾
庭園管理者から学ぶ名園の魅力
～北島神社・菺野山庭園・六軒苑～

旅行代金 (A,B,D各別) **19,500円**

旅行出発日 2025年
4/23(水)・24(木)・25(金)
5/28(水)・29(木)・30(金)
6/25(水)・26(木)・27(金)

スケジュール
名古屋駅西口 — 北島神社 — (車中弁当) — 菺野山庭園 —
六軒苑 — 名古屋駅西口

各見学地では、庭園を管理している視点からご案内する予定です。<遊覧>

①北島神社 (北島氏御祭神庭園、国名勝)
②菺野山庭園 (横山氏庭園、鎌倉御記名所、名勝地関係)
③六軒苑 (旧藤戸氏庭園、国名勝)

伊勢國お庭街道バスツアー 第二弾
～伊奈宮神社・専修寺・旧長谷川治郎兵衛家～

旅行代金 **18,500円**

旅行出発日 2025年3月25日(火)、4月19日(土)

スケジュール
名古屋 中日ビル — 伊奈宮神社 — 専修寺 —
旧長谷川治郎兵衛家 — 名古屋 中日ビル

各見学地では、庭園を管理している視点から管理者がお話し致します。

①伊奈宮神社 (七鳥池)
②専修寺 (徳川家康御願寺)
③旧長谷川治郎兵衛家 (国重要文化財指定史跡及び名勝)

事業概要

- 2) 個人客（国内）：宿泊施設のオプションツアーの開発
- ・主催：ホテル（バス会社など）
 - ・車種：ハイエース（マイクロバス）
 - ・庭園が立地する自治体にある宿泊施設の着地型観光ツアーとして全国から宿泊されるお客様を対象とした庭園巡り観光を商品化する。

【菺野町における新たな試み】

- ・実施日：令和7年4月26日
- 菺野町湯の山温泉にある老舗ホテル寿亭を10時半ごろに出発し、菺野横山庭園で庭園を見学する。その後、菺野町内で昼食。菺野町の隣のいなべ市にある聖宝寺庭園を見学して寿亭に戻り、温泉につかり、日本庭園を眺めながらお茶を楽しむオプションツアー。

いなべ市聖宝寺庭園



湯の山温泉 寿亭



- ・菺野町観光協会は、すでに「菺野巡礼一心の旅」ツアー（P18を参照）を4回実施しているが、町内のみマイクロツーリズムであること、道の駅が

出発地であること、ツアー参加者がホテル滞在者ではないことなどが新しい試みと異なる点である。これまでの経験を踏まえ、新たな試みを成功させて定番化していく。

- ・上記の菰野町にあるホテルを起点とした着地型庭園巡り観光を成功させて、協議会オブザーバーの桑名市、鈴鹿市、津市、松阪市、玉城町の宿泊施設においても同様の着地型庭園巡り観光を実施する。ホテル発の着地型庭園巡り観光が実現して定番化することができれば、全国から宿泊する個人のお客様の滞在を促して県内の滞在日数を増やしていくことが可能となる。

3) 東京発着モデルツアーの実施 (クラブツーリズム)

実施日：令和7年6月7日

内容：東京駅発、愛知県の庭園（徳川園・徳川美術館）と県内の庭園（六華苑、横山氏庭園）を巡るモデルツアー（個人1人で参加、名古屋の第一ホテル/シングルルームのビジネスホテルに泊まる）
→成功した場合、クラターで東京発のツアー作成予定

4) 外国人観光客（特に欧米）向けのモデルツアーの実証実験

- ・主催：未定
- ・時期：秋
- ・内容：日本庭園への興味関心の高い欧米系の富裕層向けのモデルツアーを国の補助金活用により行う。日本庭園を活用したインバウンドの成果と課題を検証する社会実験として実施する。次年度より社会実装する予定。

【参考】1泊2日のモデルルート（想定）

名古屋方面発着（公共交通利用）

【1日目】

近鉄名古屋駅近鉄 20分 --- 桑名駅バス 10分 --- **六華苑** 徒歩 10分 --- 東海道桑名宿（七里の渡し跡、寺町通り商店街の三八市など）
六華苑 徒歩 10分 --- 昼食：はまぐり料理（はまぐりプラザ食堂）
はまぐり料理 バス 10分 --- 安永餅本舗柏屋 / 桑名駅近鉄 40分 --- 菰野道 / **横山氏庭園** 徒歩 5分
横山氏庭園 徒歩 5分 --- 中菰野駅近鉄 4分 --- 湯の山温泉駅バス 10分 --- 湯の山温泉・御在所ロープウェイ前徒歩 5分
 湯の山温泉駅ロープウェイ 12分 --- 御在所岳山頂徒歩 10分 --- 湯の山温泉・御在所ロープウェイ前
 御在所岳山頂徒歩 10分 --- 宿泊：湯の山温泉各ホテル（温泉、郷土料理の僧兵鍋など）

【2日目】

湯の山温泉各ホテル送迎車 6分 --- 湯の山温泉駅近鉄 100分 --- 五十鈴川駅 / 五十鈴川駅前バス 6分
 湯の山温泉駅徒歩 20分 --- 内宮前徒歩 20分 --- 伊勢神宮（内宮） --- おはらい町・おかげ横丁（昼食）
 内宮前徒歩 5分 --- 内宮前バス 20分 --- 伊勢市駅前 / 伊勢市駅JR 16分
 伊勢市駅前徒歩 5分 --- **玄甲舎** / 伊勢本街道（田丸城跡、大賀蓮、伊勢擬革紙を使ったお土産づくり体験など）
玄甲舎 徒歩 5分 --- 伊勢市駅JR 120分 --- 名古屋駅

関西方面発着（公共交通利用）

【1日目】

大阪駅JR 16分 --- 鶴橋駅近鉄 85分 --- 松阪駅徒歩 10分 --- 伊勢街道（**旧長谷川次郎兵衛家**、旧小津清左衛門家、松坂城跡、御城番屋敷、松阪もめん手織りセンターなど）
旧長谷川次郎兵衛家 徒歩 5分 --- 昼食：松阪牛（和田金、牛銀など） --- 松阪駅徒歩 10分 --- 二見浦駅JR 40分 --- 二見道（二見興玉神社（浜参宮）、夫婦岩、岩戸の塩工房（伊勢神宮へ奉納する御

塩) など) 徒歩 10 分 二見浦駅 JR 10 分 鳥羽駅 送迎車10分 宿泊: 鳥羽市内各ホテル (温泉、海鮮料理など)

【2日目 (その1)】

鳥羽市内各ホテル 送迎車10分 鳥羽駅 近鉄 16分 伊勢市駅 徒歩 20分 外宮参道/伊勢神宮 (外宮) 徒歩 20分 外宮前 バス 10分 内宮前 徒歩 20分 伊勢神宮 (内宮) 徒歩 20分 昼食: 伊勢うどん、各種名物餅 (おはらい町・おかげ横丁) 徒歩 5分 内宮前 バス 20分 伊勢市駅前/伊勢市駅 近鉄 30分 JR 3分 津駅 徒歩 5分 一身田駅 徒歩 5分 伊勢別街道 (真宗高田派本山専修寺 雲幽園、伊勢木綿の向上見学など) 徒歩 15分 東一身田駅 伊勢鉄15分 鈴鹿サ一キット稲生駅 徒歩 5分 伊奈富神社/稲生山の躰躑 徒歩 5分 稲生局前 バス 10分 白子駅 徒歩 5分 伊勢街道 (伊勢型紙資料館、地酒お土産など) 徒歩 5分 白子駅 近鉄 90分 鶴橋駅 JR 16分 大阪駅

【2日目 (その2)】

鳥羽市内各ホテル 送迎車10分 鳥羽駅 近鉄 11分 五十鈴川駅/五十鈴川駅前 バス 6分 内宮前 徒歩 20分 伊勢神宮 (内宮) 徒歩 20分 食べ歩き・お土産 (おはらい町・おかげ横丁) 徒歩 5分 内宮前 バス 20分 伊勢市駅前/伊勢市駅 近鉄 15分 徒歩 5分 松阪駅 徒歩 5分 伊勢竹原駅/伊勢竹原駅前 徒歩 5分 伊勢竹原駅 JR 60分 伊勢竹原駅前/伊勢竹原駅 徒歩 5分 北畠神社前 伊勢本街道 (北畠氏館跡庭園、道の駅美杉など) 徒歩 5分 上多気交差点南 バス 40分 伊勢竹原駅前/伊勢竹原駅 JR 60分 松阪駅 近鉄 90分 鶴橋駅 JR 16分 大阪駅

県南部地域発着 (自家用車利用)

【1日目】

県南部地域 自家用車 六華苑 徒歩 10分 東海道桑名宿 (七里の渡し跡、寺町通り商店街の三八市など) 徒歩 10分 昼食: はまぐり料理 (はまぐりプラザ食堂) 自家用車25分 菰野道/横山氏庭園 自家用車5分 アクアイグニス (お土産、温泉) 自家用車10分 宿泊: 湯の山温泉各ホテル (温泉、郷土料理の僧兵鍋など)

【2日目】

湯の山温泉各ホテル 自家用車70分 玄甲舎/伊勢本街道 (田丸城跡、大賀蓮、伊勢擬革紙を使ったお土産づくり体験など) 自家用車25分 二見道 (二見興玉神社 (浜参宮)、夫婦岩、岩戸の塩工房 (伊勢神宮へ奉納する御塩) など) 自家用車20分 伊勢神宮 (内宮) /おはらい町・おかげ横丁、神宮徴古館など 自家用車 県南部地域

県北部地域発着 (自家用車利用)

【1日目】

県北部地域 自家用車 伊奈富神社/稲生山の躰躑 自家用車15分 伊勢街道 (鈴鹿市伝統産業会館 (伊勢型紙、鈴鹿墨)、清水清三郎商店 (地酒) など) 自家用車30分 伊勢別街道 (真宗高田派本山専修寺 雲幽園、伊勢木綿の向上見学、FAN'S SHOP OBORO (おぼろタオル工場直営ショップ) など) 自家用車15分 昼食: 津のうなぎ料理 (はし家、

新玉亭、大観亭など) ^{自家用車40分} - - - - 伊勢街道 (旧長谷川次郎兵衛家)、旧小津清左衛門家、松坂城跡、御城番屋敷、松阪もめん手織りセンターなど) ^{自家用車10分} - - - - 宿泊：松阪駅周辺ホテル (夕食は市内で松阪牛、松阪とり焼肉など)

【2日目】

松阪駅周辺ホテル ^{自家用車50分} - - - - 伊勢本街道 (北畠氏館跡庭園、道の駅美杉など) ^{自家用車} - - - -
-- 外宮参道 / 伊勢神宮 (外宮) ^{徒歩 10分} - - - - 昼食：伊勢うどん、各種名物餅 ^{自家用車10分} - - - -
伊勢神宮 (内宮) / おはらい町・おかげ横丁 / 神宮ばら園 ^{自家用車20分} - - - - 伊勢志摩スカイライン / 金剛證寺 / 朝熊山展望台 (天空のポスト) ^{自家用車} - - - - 県北部地域

(様式2)

令和8年3月10日

国土交通省都市局長 殿

みえガーデンツーリズム協議会
会長 横山 陽二

庭園間交流連携促進計画の登録申請について（提出）

標記の件について、別紙のとおり提出します。

なお、本件は申請者として挙げた全ての構成員の合意の下に提出するものであることを申し添えます。

担当者連絡先			
氏名	松岡 直美		
電話	059-271-6588	FAX	059-271-6589
E-mail	info@1-piece.biz		
住所	(〒514-0027) 三重県津市大門 4-5 (株式会社ワンピース内)		